

中小企業景気動向調査

〔2012年4～6月期の景況/7～9月期の予想〕

【調査要項】

実施期間:2012年5月21日～6月6日

調査対象:県内の当金庫のお取引先 959社(下記参照)

調査方法:郵送および面談によるアンケート調査

分析方法:業況、売上、収益、資金繰り、人手などについて、「良い」(増加など)と答えた企業割合から「悪い」(減少など)と答えた企業割合を差し引いた値(DI:Diffusion Index)を中心に分析

	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	不動産業	運輸業	サービス業	合計
対象先数	424	125	77	28	144	43	34	84	959
回答数	388	112	73	27	135	39	31	79	884
回答率(%)	91.5	89.6	94.8	96.4	93.8	90.7	91.2	94.0	92.2

- DI (Diffusion Index) について -

DIの算出方法

(5段階の選択肢)

(1)良い (2)やや良い (3)普通 (4)やや悪い (5)悪い

(基本式)

$$\text{判断DI} = \text{「選択肢(1)の構成比} + \text{選択肢(2)の構成比} \\ - \text{「選択肢(4)の構成比} + \text{選択肢(5)の構成比}」 \\ \text{(マイナス)}$$

(例)業況判断DI

$$= \left(\begin{array}{c} \text{業況「良い」【選択肢(1)】} \\ \text{回答の構成比} \\ 5\% \end{array} + \begin{array}{c} \text{業況「やや良い」【選択肢(2)】} \\ \text{回答の構成比} \\ 15\% \end{array} \right) \\ - \left(\begin{array}{c} \text{業況「やや悪い」【選択肢(4)】} \\ \text{回答の構成比} \\ 10\% \end{array} + \begin{array}{c} \text{業況「悪い」【選択肢(5)】} \\ \text{回答の構成比} \\ 25\% \end{array} \right) \\ \text{(マイナス)} \\ = 20\% \text{(構成比の合計)} - \text{(マイナス)} 35\% \text{(構成比の合計)} \\ = 15.0\% \text{ポイント}$$

DIは5段階ある選択肢それぞれの構成比(回答企業割合)を算出し、「良い(増加)」グループの合計値(構成比の合計)から「悪い(減少)」グループの合計値(構成比の合計)を差し引いて求める。

DIは「良い」グループと「悪い」グループに限って見たとき、どちらが多数派なのかという限定的なモノサシである。よって、得られる結果は「回答企業割合(構成比)ベースで、相対的にどちらがどれだけ多い」という値であり、DIが同じ数値であっても、それぞれの時点における各選択肢の回答企業割合は異なるため、水準を比較する場合は注意を要する。

(備考)信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

結果概要

4～6月期の景況

- ・業況判断DIは、製造業・非製造業ともに悪化。自動車の「挽回生産」が終わり、生産が一段落したことが影響した。
- ・売上・収益の面では、製造業で増収増益が続いている。

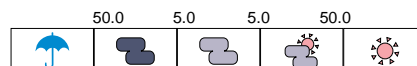
7～9月期の予想

- ・予想業況判断DIは、4～6月期とほとんど変わらず、マインドは横ばい推移する見通し。

業種別天気図（業況判断DIによる）

業種	前期 (1～3月期)	今期 (4～6月期)	予想 (7～9月期)	業種	前期 (1～3月期)	今期 (4～6月期)	予想 (7～9月期)
全産業	10.8	15.5	15.2	印刷	45.4	55.6	55.6
製造業	1.0	8.0	7.5	食料品	27.6	38.0	34.5
非製造業	20.3	21.3	21.3	卸売業	18.3	29.7	26.3
自動車部品	33.0	18.2	15.6	小売業	32.3	33.3	33.3
機械器具部	9.9	18.2	10.3	飲食業	46.1	53.9	42.3
金属製品	7.9	13.2	9.9	建設業	23.8	18.6	15.7
窯業・土石	6.3	15.0	20.0	不動産業	2.7	12.8	2.6
木材・木製品	0.0	27.3	27.3	運輸業	6.7	9.7	10.0
繊維製品	8.0	0.0	3.7	サービス業	18.2	13.9	19.0

数値は業況判断DI



業況判断

1年ぶりに業況判断DIが悪化

〔全産業〕

・ 4～6月期の企業の景況感を表す**業況判断DI**（業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス15.5となり、1～3月期（マイナス10.8）に比べ4.7ポイント悪化した。DIの悪化は1年ぶり。

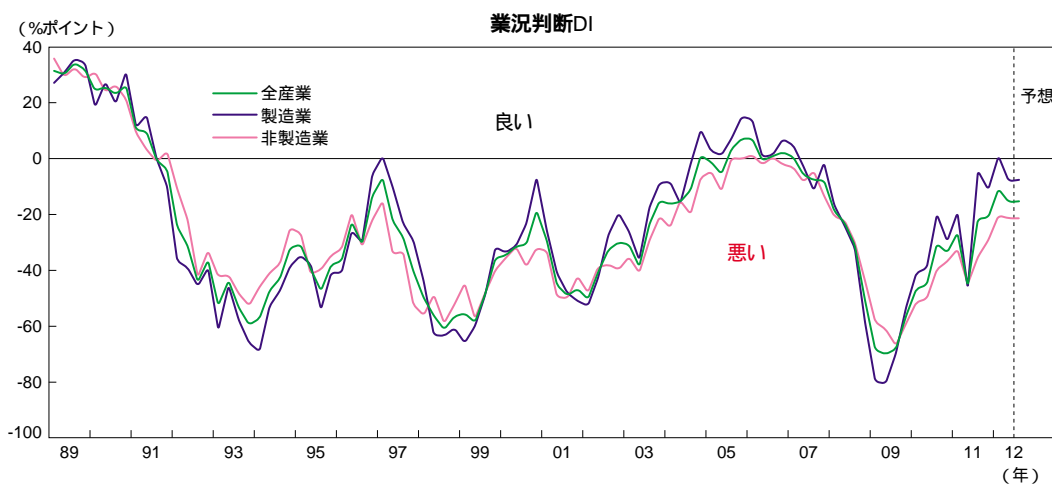
	前期 〔1～3月期〕	今期 〔4～6月期〕	予想 〔7～9月期〕	変化幅			
				前期	今期	今期	予想
全産業	10.8	15.5	15.2	-4.7		0.3	
製造業	1.0	8.0	7.5	-9.0		0.5	
非製造業	20.3	21.3	21.3	-1.0		0.0	-

（単位：%ポイント はマイナス）

・ 7～9月期の**予想業況判断DI**はマイナス15.2と、0.3ポイントの改善が見込まれている。

〔製造業〕

- ・ **業況判断DI**はマイナス8.0。1～3月期（1.0）に比べ9.0ポイント悪化した。悪化は1年ぶり。
- ・ タイの洪水にともなう「挽回生産」が終わり、自動車生産が一段落ついたことがマインドに影響したとみられる。
- ・ ただし、前回調査時の4～6月期の予想DIがマイナス14.4だったことを考慮すれば、予想以上に底堅い部分があったこともうかがえる。補助金などの効果で新車販売が好調だったことや自動車輸出の回復が下支えした。
- ・ DIが改善したのは、**繊維製品**。悪化したのは、**自動車部品、機械器具部品、金属製品、窯業・土石、木材・木製品、印刷、食料品**。
- ・ **予想業況判断DI**はマイナス7.5と、0.5ポイントの改善が見込まれている。



〔非製造業〕

- ・ **業況判断DI**はマイナス21.3。1～3月期（マイナス20.3）に比べ1.0ポイント悪化した。
- ・ DIが改善したのは、**建設業、不動産業、サービス業**。悪化したのは、**卸売業、小売業、飲食業、運輸業**。
- ・ **不動産業**は15.5ポイントの改善。およそ5年ぶりにDIがプラスに。
- ・ **予想業況判断DI**はマイナス21.3。4～6月期と変わらず、マインドは横ばい推移する見通し。

4～6月期の業況		
	改善した業種	悪化した業種
製造業	繊維製品	自動車部品 機械器具部品 金属製品 窯業・土石 木材・木製品 印刷 食料品
非製造業	建設業 不動産業 サービス業	卸売業 小売業 飲食業 運輸業

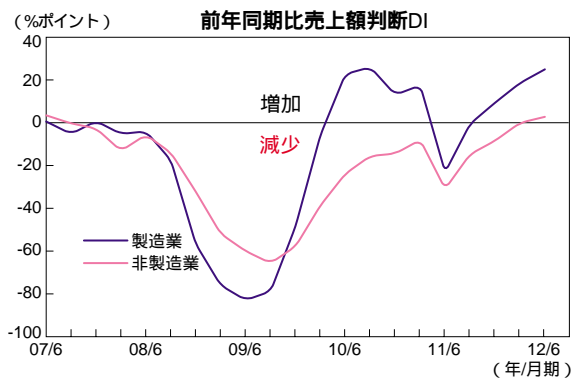
7～9月期の予想		
	改善予想の業種	悪化予想の業種
製造業	機械器具部品 金属製品 食料品	自動車部品 窯業・土石 繊維製品
木材・木製品と印刷は変わらず		
非製造業	卸売業 飲食業 建設業	不動産業 運輸業 サービス業
小売業は変わらず		

売上額・収益

製造業は3四半期連続の増収増益

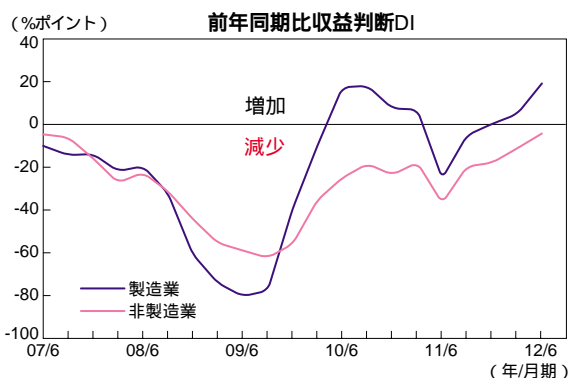
〔全産業〕

- ・ **前年同期比売上額判断DI**（売上額が前年同期と比べ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）は12.6〔増加〕。プラスは2四半期連続。
- ・ **前年同期比収益判断DI**（収益が前年同期と比べ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）は6.0〔増加〕となった。



〔製造業〕

- ・ 前年同期比売上額判断DIは25.0〔増加〕。
前年同期比収益判断DIは19.2〔増加〕。
- ・ とともにDIのプラスは3四半期連続。
- ・ 増収増益となったのは、自動車部品、機械器具部品、金属製品、木材・木製品。
- ・ 機械器具部品は9四半期連続の増収増益。



〔非製造業〕

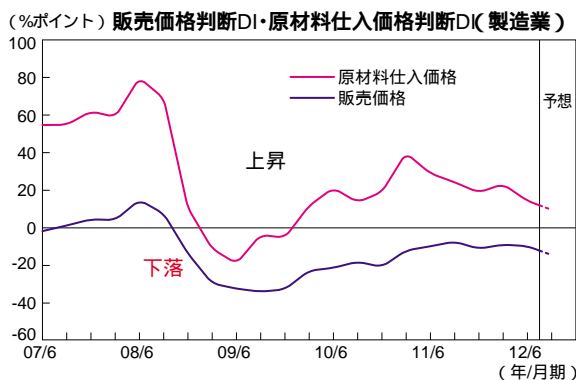
- ・ 前年同期比売上額判断DIは2.8〔増加〕。
- ・ 前年同期比収益判断DIはマイナス4.2〔減少〕。
- ・ 増収増益となったのは、不動産業、運輸業、サービス業。

前年同期に比べた売上額		前年同期に比べた収益	
	増加した業種	減少した業種	
製造業	自動車部品 機械器具部品 金属製品 木材・木製品 繊維製品	窯業・土石 印刷 食料品	製造業
非製造業	建設業 不動産業 運輸業 サービス業	卸売業 飲食業	非製造業
小売業は変わらず			

〔全産業〕

販売価格・仕入価格

- ・ 販売価格判断DI（販売価格が3ヵ月前と比べ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）がマイナス12.1〔下落〕となる一方、仕入価格判断DI（仕入価格が3ヵ月前と比べ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）は10.8〔上昇〕となった。

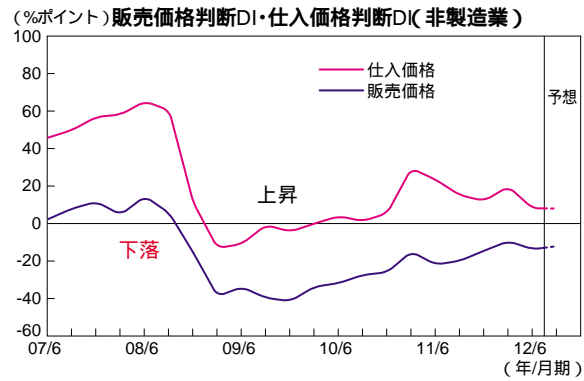


【製造業】

- ・ 販売価格判断DIはマイナス10.0〔下落〕、
原材料仕入価格判断DIは14.2〔上昇〕
となった。

【非製造業】

- ・ 販売価格判断DIはマイナス13.7〔下落〕、
仕入価格判断DIは8.1〔上昇〕となった。

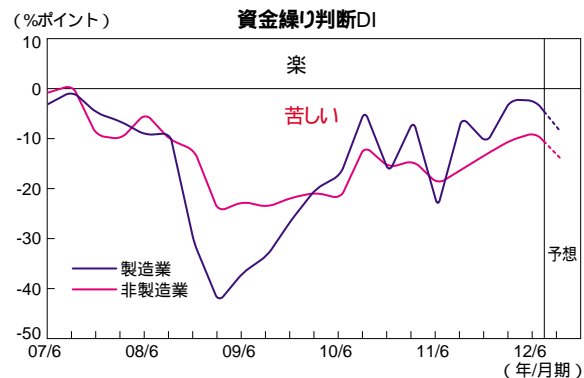


資金繰り

「苦しい」資金繰り続く

【全産業】

- ・ 資金繰り判断DI (資金繰りが3ヵ月前と比べ「楽」と答えた企業の割合から「苦しい」と答えた企業の割合を差し引いた値)はマイナス5.8〔苦しい〕となった。
- ・ 予想資金繰り判断DIはマイナス11.6〔苦しい〕。



【製造業】

- ・ 資金繰り判断DIはマイナス2.4〔苦しい〕。
- ・ 1~3月期(マイナス2.2)に比べ、やや悪化している。
- ・ 予想資金繰り判断DIはマイナス8.4〔苦しい〕。

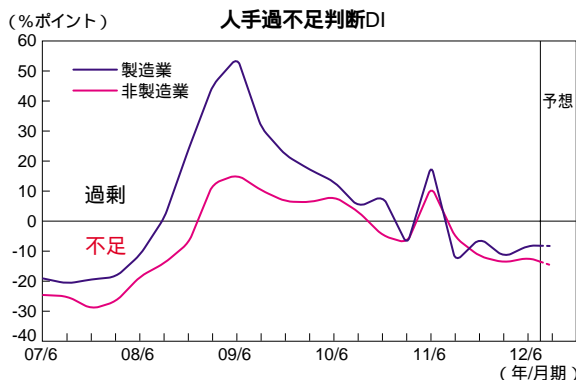
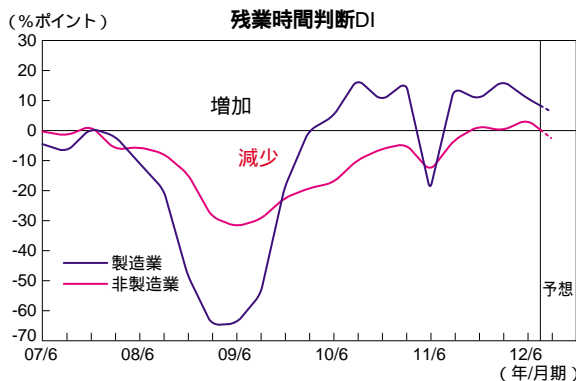
【非製造業】

- ・ 資金繰り判断DIはマイナス8.8〔苦しい〕。
- ・ 1~3月期(マイナス10.3)に比べ、やや改善している。
- ・ 予想資金繰り判断DIはマイナス13.8〔苦しい〕。

雇用

【全産業】

- ・ **残業時間判断DI**（残業時間が3カ月前と比べ「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いた値）は6.9〔増加〕となった。
- ・ **予想残業時間判断DI**は1.4〔増加〕。
- ・ **人手過不足判断DI**（人手が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス10.3となり、人手不足感が出ている。
- ・ **予想人手過不足判断DI**はマイナス12.0〔不足〕。



【製造業】

- ・ **残業時間判断DI**は10.8〔増加〕。
- ・ **予想残業時間判断DI**は6.3〔増加〕。
- ・ **人手過不足判断DI**はマイナス8.1〔不足〕。
- ・ **予想人手過不足判断DI**はマイナス8.3〔不足〕。

1～3月期に比べた残業時間		
	増加した業種	減少した業種
製造業	自動車部品 機械器具部品 金属製品 窯業・土石	繊維製品 印刷 食料品
	木材・木製品は変わらず	
非製造業	卸売業 飲食業 建設業 運輸業 サービス業	不動産業
	小売業は変わらず	

人手過不足感		
	人手過剰	人手不足
製造業	自動車部品 窯業・土石	機械器具部品 金属製品 木製・木製品 繊維製品 印刷 食料品
	非製造業	卸売業 小売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業

〔非製造業〕

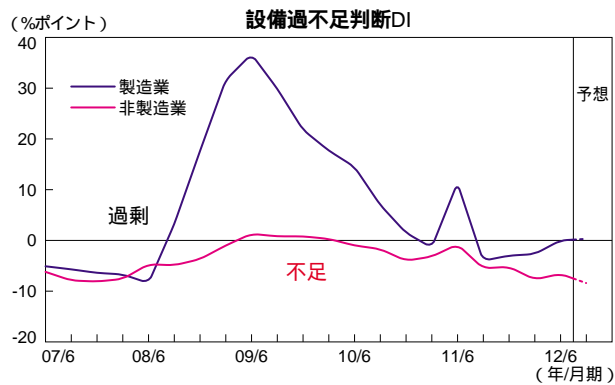
- ・ 残業時間判断DIは3.7〔増加〕。
- ・ 予想残業時間判断DIはマイナス2.5〔減少〕。
- ・ 人手過不足判断DIはマイナス12.2〔不足〕。
- ・ 予想人手過不足判断DIはマイナス14.9〔不足〕。

設 備

設備投資実施 製造業 30.7% 非製造業 23.9%
 設備投資計画 製造業 26.2% 非製造業 21.7%

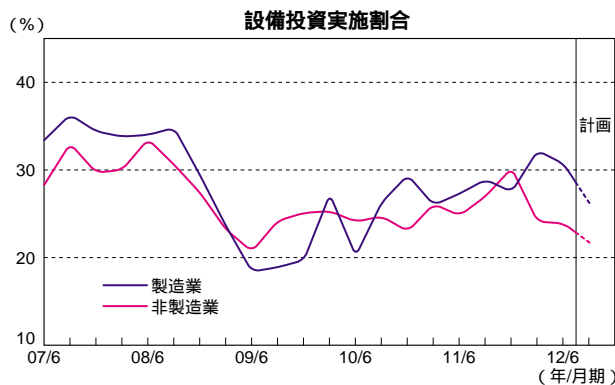
〔全産業〕

- ・ 設備過不足判断DI（設備が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス3.5〔不足〕となった。
- ・ 予想設備過不足判断DIはマイナス4.4〔不足〕。
- ・ 4～6月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は27.1%。
- ・ 7～9月期に設備投資を計画している企業は23.8%。

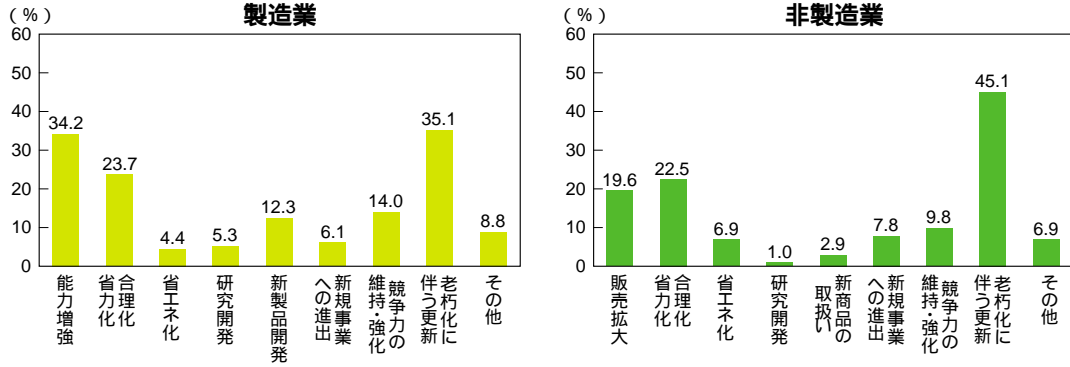


〔製造業〕

- ・ 設備過不足判断DIは0.0。
- ・ 予想設備過不足DIは0.3。
- ・ 4～6月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は30.7%。
- ・ 内訳としては、機械・設備の新增設が51.8%、機械・設備の更改が30.7%、車両27.2%、事務機器15.8%などとなっている。
- ・ 設備投資の目的としては、老朽化に伴う更新が35.1%、能力増強が34.2%、合理化・省力化が23.7%などとなった。
- ・ 7～9月期に設備投資を計画している企業は26.2%。

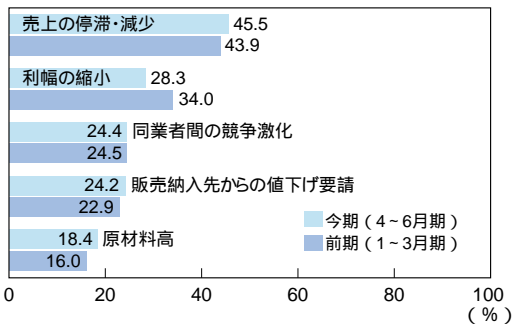


4～6月期の設備投資の主な目的

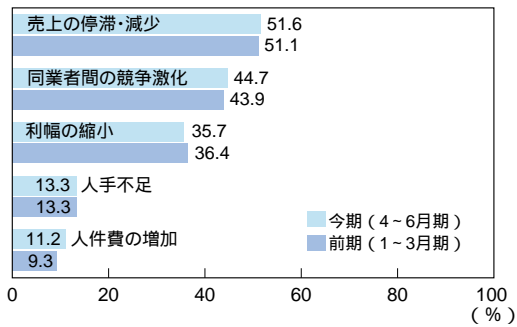


経営上の問題点

製造業

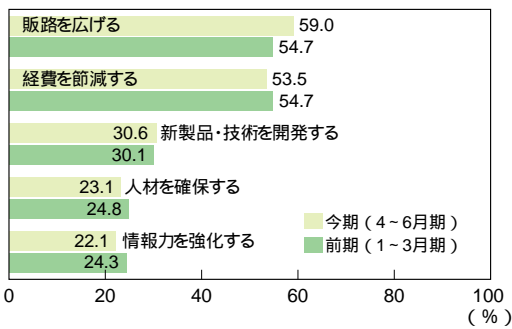


非製造業



当面の重点経営施策

製造業



非製造業

